

公募審査（採択）結果の公表

経済産業省資源エネルギー庁
資源・燃料部燃料供給基盤整備課

事業名：令和7年度「非化石エネルギー等導入促進対策費補助金（次世代燃料生産・利用技術開発事業費のうち、合成燃料（e-fuel）等導入促進事業）」

（採択事業者）

事業者名	法人番号	提案価格
エネルギー供給構造高度化事業コンソーシアム	2700150112935	2,384,800,000

（提案事業者名）

エネルギー供給構造高度化事業コンソーシアム

※提案事業者名と下記にある事業者名の順番は対応していない

（審査委員属性）

大学教授

大学教授

民間団体職員

※審査委員の属性と下記にある委員の順番は対応していない

（採点結果）

提案事業者名	委員A	委員B	委員C	平均
エネルギー供給構造高度化事業コンソーシアム	93	80	67	80.0

提案事業者名	提案書の記載内容	事業目的、実施内容	事業実施方法	事業実施計画	人員体制	事業従事者の能力	協力体制	財政基盤・管理体制	ワーク・ライフ・バランス等の推進に関する指標	賃上げの実施表明	合計
エネルギー供給構造高度化事業コンソーシアム	適	18.0	16.0	12.7	7.3	8.7	4.3	8.0	0.0	5.0	80.0
委員A	適	20	20	13	10	10	5	10	0	5	93
委員B	適	20	14	14	6	8	5	8	0	5	80
委員C	適	14	14	11	6	8	3	6	0	5	67

（評価コメント）

提案事業者名	コメント
エネルギー供給構造高度化事業コンソーシアム	<p>●本事業に申請した事業者としてのコンソーシアムは、設備設計、保全、計測、流通に至る体制が組まれていると共に、化石燃料等供給体制の強靱化に関連する多くの事業実績を有している。また、中立な技術審査委員会も設置されている。予定している公募（案）も適切と考えます。これらの理由から本申請は採択に値すると考えます。ただ、採択された場合に予定される公募が単年度事業であるため、年度末評価には今後の展開の期待も含めた柔軟性を持たせることをお願いしたい。</p> <p>●固々の担当者の経歴としては、いずれも出光やENEOSを出自としており、本分野に明るい方が多い。一方で、本補助金を運用する担当として最適なメンバーかどうかという点では、満点とは言えない。ふるさと研究所の役割が非常に不明瞭で、かつほぼ個人営業の体制である点が気になる。</p> <p>●補助対象として、次世代燃料のサプライチェーン構築による安定供給の確保およびそれらの環境整備を行うことが広く対象とされており、次世代燃料の安定供給体制の構築という本事業の目的に合致していると考えます。補助対象の次世代燃料については、資源量が限定されるバイオエタノールなどのバイオ由来燃料のみでなく、長期的には大量、且つ安定な供給が期待されるe fuel、e-メタノールなども検討対象となることが望ましいと考えます。申請者であるコンソーシアムは、次世代燃料の安定供給促進事業での類似事業の実績があり、本事業においても問題なく事業実施できると考える。また、技術審査委員会は、本事業に関連する分野の有識者で構成されており、政策面、技術面での適正な審査が期待されると考えます。</p>